

【 2018 アジア選手権 】

2018年1月18日～1月28日 韓国・水源

試合結果報告 1 月 18 日 (木)

J P N	VS	UZB(ウズベキスタン)
19	前半	12
19	後半	15
38	合計	27

個人得点

名前	前半	後半	7mTC		合計
佐々木 亮輔					0
酒井 翔一郎		1			1
宮崎 大輔		3			3
笠原 謙哉					0
小賀野 龍也					0
部井久 アダム 勇樹	2	6			8
甲斐 昭人					0
植垣 健人		1			1
成田 幸平		1			1
徳田 新之介	2				2
渡部 仁	2	1			3
土井 レミイ 杏利	3	2			5
信太 弘樹	3				3
元木 博紀	3	4			7
玉川 裕康	1				1
東江 雄斗	3				3
門山 哲也					0
合計	19	19	0	0	38

戦評

いよいよ開幕した第18回アジア選手権。ベスト4以上で来年の世界選手権(ドイツ・デンマーク)出場となる今大会。日本の初戦は中央アジアのウズベキスタンとなった。

前半出だしから試合をコントロールし、信太、土井、元木らでテンポよく得点を重ねていく。対するウズベキスタンも突破力ある1対1から右バックの左腕エース・クサンバエフにボールを集めて反撃を試みる。初戦ということもあり、両チームともプレーに若干固さがみられたが、前半を19-12と日本7点リードで折り返す。

後半に入ると、次戦を視野に入れたメンバーチェンジを行う。そこで日本の若き左バック・部井久が躍動する。チームプレーで作り出した広いスペースに迷いなく走り込み、豪快なシュートを立て続けに叩き込む。さらに好調だったのがベテラン・宮崎。ポジションチェンジからバックコートに進出すると、効果的な1対1やステップシュートで相手を翻弄した。守っては渡部のアグレッシブなボディンタクト、GK・甲斐、佐々木らでいげんすラインを統率し、38-27と快勝した。しかし、セットディフェンスの精度・強度をあと少し上げたいのも事実である。相手の「戦術的ではない、強引な突破」に対するディフェンスプレーの甘さも見られた。次のイラン戦は精神的、身体的に非常に厳しい戦いになると思われる。オフェンスでは「Play Together」、ディフェンスでは「Fight Together」を徹底して勝利を手にした。

報告記入者 :

吉村 晃